

みんなの願いは窓口無料 すすめる会ニュース 16-4号

2016年5月30日(月)

発行：福祉医療給付制度の改善をすすめる会

<http://www.medical-post.net/fukushi/>

(長野市高田中村276-8：長野県社保協内)

5/21 すすめる会総会開催(38名参加) 県内外の前向きの変化を確信に、 窓口無料化実現めざし奮闘しよう!



さる5月21日(土)福祉医療給付制度の改善をすすめる会の年次総会が開かれ、各加盟団体から38名の方が参加しました。総会では、前半「精神障がい者当事者団体」と「ウイルス性肝炎患者会」の代表の方からのミニ講演(別途)があり、後半年次総会が開かれました。

年次総会では、和田会長から開会のあいさつ(左写真)があり、湯浅事務局長から昨年度の活動報告、関連する情勢、本年度の活動方針が提案され、確認されました(右下写真)。また、昨年度決算と新年

度予算の提案があり確認されました。宮沢事務局次長から和田会長以下本年度の役員の提案がされ、確認されました。

和田会長は開会のあいさつの中で、民医連の小児科での昨年実施した患者調査で「窓口無料の患者群」と「償還払いの患者群」の比較で「受診を控えた」「支払いが大変」と答えた患者層で優位な違いがあることがわかったと窓口無料化実施の必要性・重要性を強調しました。また、長野県小児科医会を始め、全国の小児科医師の中に「子どもの貧困」についての認識やその改善策の必要性・緊急性の認識が広がっていることなど紹介されました。



湯浅事務局長が報告・提案した内容では、昨年4月の県議員選挙後の県議会内での力関係の変化、長野県小児科医会の要望書提出、県下市町村における福祉医療給付対象者の拡大、他県での新しい変化、厚生労働省の国保補助金削減の一部見直しの動きなど、2015年度は、県内外の新しい動きが顕著となり、窓口無料化実現に向けた前向きの変化を確認できる年であったこと。その上で、2016年は、新しい前向きの変化を確信に、窓口無料化実現に向けた正念場の年であると位置づけ、新しい県民運動を起こしていくために奮闘しようと提案されました。

総会では、参加者から「議会請願に取り組む」などの発言・報告がありました。尚、総会には、日本共産党県会議員高村京子氏から激励のあいさつを頂きました。

総会でのミニ講演

精神障がい者当事者の会：NPO法人ポプラの会穂苅さん 長野県肝臓病患者会協議会：土屋さん



年次報告の前に2つの当事者団体の代表からのミニ講演があり、それぞれ当事者の置かれている状況や福祉医療給付や公費助成の状況と改善要望についての報告がありました。

講演されたのは精神障がい者当事者の会であるNPO法人ポプラの会の穂苅さん(左写真)と長野県肝臓病患者会協議会の土屋さん(右写真)でした。

